

# 防御施設 整えた城

一般にイメージしている、本丸が一番大事で、次が二の丸で三の丸が準じるといふ城のイメージで鳥海柵を理解してよい

か。発掘では原添下区域で柵が見つかっただけでなく、鳥海区域でも、二ノ宮後区域でも柵の痕跡が見つかっています。こうした状況は、どこか唯一の場所が特別で絶対的な中心ということではなく、同等の重要度や中心性をもった城館が、鳥海柵の中で分立的に存在している

た証拠だと思えます。鳥海柵の全体を発掘したら、ある部分が最も大事な空間とはっきりするかもしれない。しかし実際には多核的な中心の差は相対的で、中心機能を發揮した城館が分立的にありつつ結合して、鳥海柵ができていたと考え

ています。発掘で見つかった城としての構成要素の柵や堀・柵は、絵画資料である「後三年合戦絵巻」などにも描かれました。

絵を見ていくと、柵が建ち、柵の上には置き盾がありました。柵は守りの要であり、絵画でも柵や板塀、切岸と合わせて強固な城壁を構成しました。

「後三年合戦絵巻」に描かれた柵・板塀・切岸を詳細に観察すると、それらを組み合わせるために、それらを組み合わせて守りを固めた出入口を描いたと読み解けます。絵が描かれたのは、鳥海柵の時代よりも下るため、比較には注意が必要です。

が、こうした構成要素は鳥海柵でも見つかったいます。鳥海柵の鳥海区域では、たいへん面白い遺構

を見つけています。沢に降りる城道に対して、柵が互い違いになっていたのです。まさに絵画資料が描いた出入口の造りと同じで、柵を互い違いにして、そのすき間に門を建て、切岸を

上り下りして城外と接続した城道を設定していたのです。

絵画資料に描かれていた一連の守りの装置や道具立てが、鳥海柵の発掘調査で具体的・実証的に見つかった意義は大きいと言えます。鳥海柵は単に区画や、権威の象徴として堀をめぐらせたのではなく、戦いに備え、実際に機能する防御施設を整えた城だったのです。

(つづく)

た証拠だと思えます。鳥海柵の全体を発掘したら、ある部分が最も大事な空間とはっきりするかもしれない。しかし実際には多核的な中心の差は相対的で、中心機能を發揮した城館が分立的にありつつ結合して、鳥海柵ができていたと考え

ています。発掘で見つかった城としての構成要素の柵や堀・柵は、絵画資料である「後三年合戦絵巻」などにも描かれました。

絵を見ていくと、柵が建ち、柵の上には置き盾がありました。柵は守りの要であり、絵画でも柵や板塀、切岸と合わせて強固な城壁を構成しました。

「後三年合戦絵巻」に描かれた柵・板塀・切岸を詳細に観察すると、それらを組み合わせて守りを固めた出入口を描いたと読み解けます。絵が描かれたのは、鳥海柵の時代よりも下るため、比較には注意が必要です。

## 金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵跡

2

## 考察 全盛期の中心的建物

2017年度シンポジウムより

講演 千田 嘉博氏 (奈良大学教授)

### 「前九年合戦と鳥海柵」 II



当時の姿を今に残す第二沢(資料)

千田 嘉博 (せんだ・よしひろ)  
奈良大学文学部文化財学科教授。1963年、愛知県生まれ。奈良大学文学部文化財学科を卒業後、名古屋市見晴台考古資料館学芸員、国立歴史民俗博物館助教授を経て現職。